

授業科目 老年看護学実習Ⅲ	科目概要・形式 3単位 135時間 実習科目	配当年次 博士前期2年次 通年開講	オンライン参加 不可
科目責任者	出貝 裕子		
科目担当者	出貝 裕子, 長内 志津子, 花田 麻由美		
<b>1. 科目のねらい・目標</b> パーソンセンタードケアの理念を基盤に、認知症の診断治療及び入院治療を要する患者の包括的アセスメントに基づく高度看護実践能力と倫理的課題に対する調整能力を修得する。さらに認知症予防から診断、長期におよぶ療養生活、エンドオブライフを見通した継続看護能力を修得する。  到達目標 [1] 外来において認知症の診断を受けた高齢者とその家族の包括的なアセスメントにより、今後必要となる支援を計画することができる。 [2] 倫理的課題や多職種との連携上の課題がある認知症高齢者を受け持ち、その生活歴や人となりを踏まえた包括的なアセスメントに基づき、認知症高齢者の持てる力を引き出しながら看護を実践し、事例報告として表現できる。 [3] 受け持ち患者への援助実践にあたり、スタッフとのケアチームにおいてリーダーシップを発揮し協働できる。 [4] 認知症患者の経過に沿って、家族の介護力、心理状態をアセスメントし、必要な支援を多職種と連携して計画し実践・評価できる。 [5] 治療や療養生活において生じる倫理的課題の解決に向け、関係者の価値観・意向をアセスメントし、指導者の助言の元で必要な調整をすることができる。 [6] 認知症患者の診断及び治療の過程において老人看護 CNS に求められる役割について説明できる。 [7] 実習計画の立案から実習指導者との相談・調整や看護実習の実践、実習の振り返りや自己洞察に主体的に取り組むことができる。			
<b>2. 授業計画・内容</b>  <実習の展開> 1) 認知症（物忘れ）外来を受診する高齢者1名の診察に同席するとともに、実習指導者の協力の下、診察前後の時間を使って患者・家族との面談の時間をとる。面談の場では、認知機能、患者・家族の困りごとや心理状態等を包括的にアセスメントし、その場で必要な支援を実施するとともに、今後継続して必要となる支援やサポート体制を検討する。 2) 認知症の進行程度の異なる入院患者1名程度を受け持ち、家族も含めた援助を展開する。これまでの認知症患者援助経験にとらわれず、パーソンセンタードケアの実現を追求すること。 3) 実践の中で、倫理的課題やケア方法について、病棟スタッフとのカンファレンスを自ら積極的に主催し、病棟スタッフとともにケア改善に向けて取り組む。 4) 実習指導者、指導教員のスーパービジョンを受ける。実習指導者とは毎日振り返りの時間をもち日々の疑問や改善点を明らかにして翌日の実習に臨む。教員とは定期的に対面あるいはオンラインで面談し、実習の進捗を報告し、必要な助言を受ける。 5) 実習におけるカンファレンスについて学生自身が企画運営し、実習指導者と指導教員の参加の下で行う。カンファレンス資料は事前に配布・配信することとする。			
<b>3. 教科書・参考書</b> 専門科目で使用した教科書、授業資料			
<b>4. 成績評価方法</b> 評価は、実習達成度について教員と実習指導者との協議を踏まえ、かつ実習及び事例報告を通じて、担当教員が単位認定を判定する。 評価項目：実習目標の達成度（実習記録）、実習レポート、実習に対する態度・姿勢			
<b>5. 受講要件</b> なし			
<b>6. 社会人学生に対する配慮</b>			
<b>7. その他</b>			